

# ウンカ情報第3号

平成22年9月1日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除グループ

## 1 セジロウンカの発生状況

ほ場での発生量は依然多い状態が続いています。また、西三河地方の一部ほ場で本種の加害による生育遅延が確認されました(図1)。8月下旬の本田調査(県内104ほ場)では、県内全域の83ほ場で成虫や幼虫が捕獲されています。特に捕虫網による20回振り調査では最近10年のデータと比較して捕獲数が最も多くなっています(下表)。セジロウンカは出穂期以降、水田外へ移動する長翅型成虫が多くなり密度は次第に減少していきますが、幼虫の発生量が多いほ場では、今後しばらく発生動向に十分注意してください。

セジロウンカの本田調査結果(平成22年8月下旬調査 104ほ場平均 単位:頭)

調査方法	成虫	幼虫	計
粘着板による10株の払い落とし	2.4 (2.5)	3.2 (3.1)	5.6 (5.6)
捕虫網による20回振り	25.4 (7.5)	22.4 (3.8)	47.8 (11.3)

注) ( )内数値は平年値(平成12~21年の平均)

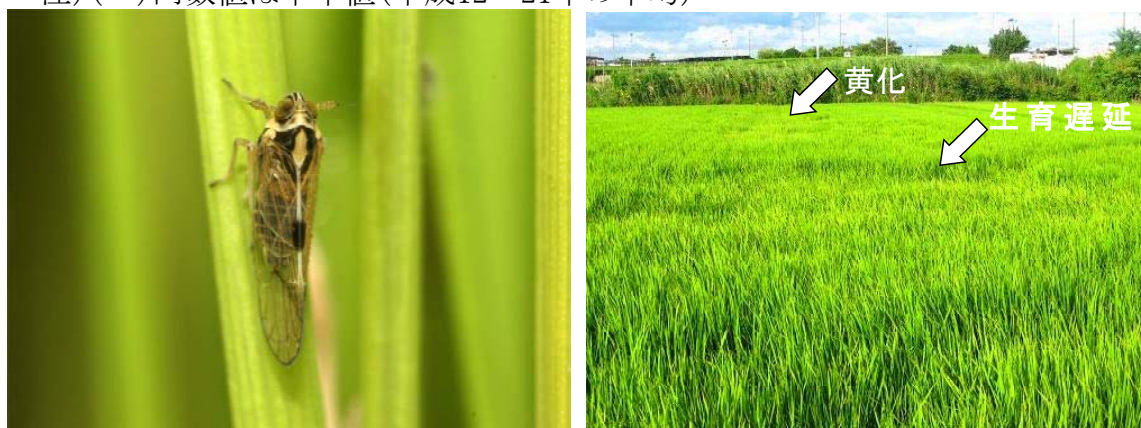


図1 セジロウンカ成虫と吸汁加害による黄化、生育遅延(平成22年8月)

## 2 トビイロウンカの発生状況

長久手町の予察灯で8月14日に2頭、15日と20日にそれぞれ1頭ずつ成虫が誘殺されました。予察灯への飛来は平年に比べてやや早い状況です。また、8月下旬の本田調査でも南知多町、吉良町のほ場でそれぞれ1頭ずつ生息を確認しました。本田調査での発生量は平年に比べてやや多い状況です。また、新城市でも本田で成虫を確認しています。今後の気象条件によっては坪枯れ(図2)が発生するほ場も出現すると思われるので、特に過去に坪枯れが発生したほ場では発生動向に十分注意し、本種の発生を確認したら直ちに防除しましょう。

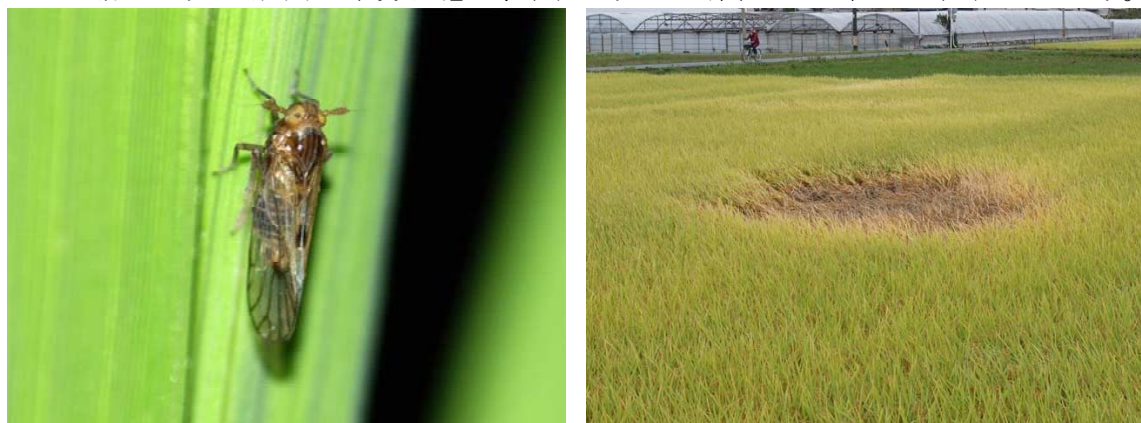


図2 トビイロウンカ成虫と吸汁加害による坪枯れ(平成21年10月)